

平成22年度・江戸川区立小岩第三中学校

学力向上を図るための取り組みプラン

【平成21年度（中学1年生対象）学力向上を図るための調査結果報告について】

平成22年1月15日に実施された中学1年生対象の「生徒の学力向上を図るための調査」の結果が7月になり都教委から返却されました。各中学校が学校毎に「学力向上を図るためのプラン」を含めて、学力調査の結果を平成22年度もホームページに掲載することになりましたのでお知らせいたします。

、平成21年度 学力向上を図るための調査結果について

【中学校1年基礎的・基本的な事項に関する調査結果】

【国語】

「話すこと聞くこと」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均とほぼ同じでした。

「書くこと」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均とほぼ同じでした。

「読むこと」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均とほぼ同じでした。

「言語事項」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均をやや上回りました。

国語全体においては、

本校は 江戸川区の平均をかなり上回りました。

東京都の平均をやや上回りました。

【数学】

「数学的な見方・考え方」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均をやや上回りました。

「表現・処理」において、

本校は江戸川区の平均をかなり上回りました。 東京都の平均をやや上回りました。

「知識・理解」において、

本校は江戸川区の平均を上回りました。 東京都の平均を下回りました。

数学全体においては、

本校は 江戸川区の平均を上回りました。

東京都の平均をやや下回りました。

II、本校「基礎学力の向上を目指す推進プラン」について

本校では平成15年度より生徒達の自学自習への意識化、習慣化を強化するために校内特別委員会を立ち上げ、平成16年7月初旬に本プランを策定しました。上記にも紹介しましたが、平成22年度は、具体的には次の通り継続した実践を展開してまいります。

①小岩三中・土曜スクールプラン

目的 生徒の自学自習への学習意欲を向上させる一助にする。

地域や卒業生（大学生）に働きかけ、指導員としてお願いし、基礎学力の補足的な取り組みの展開とする。

★ 取り組みプラン

6月より平成22年2月まで、毎月2回（土曜日）実施する。延べにして、合計16回の実施とする。指導員の内訳は以下の通りです。

《指導員》 地域の方：2名 本校卒業の大学生：12名。
本校職員：15名 合計：25名

②基礎学力向上到達度評価テスト及び自己学習プラン

目的 昨年度、本校独自の自作テキストを改訂し、このテキストを活用し生徒の学習意欲の向上を図る努力をする。日常の学校での授業や各人が自宅にて自主学習を主体的に行うことができる前向きな向学心を育成します。

そのために、読み書きそろばんともいえる、「計算力・語学（国語、英語の読み・書き）」の基礎的な学力が身に付いているかを生徒自身に自覚させながら理解させ、自己学習に役立たせます。

★ 取り組みプラン

4月より定期的に本校作成の自作テキストを活用し「到達度評価テスト」を実施します。その結果は、生徒一人一人の到達度を評価し、生徒、保護者に伝えます。合格点に達しない生徒は、補充教室を含み自宅にて家庭学習に取り組みせ、再度、評価テストを行い合格させます。そして、合格したという達成感を生徒自身が実感することにより、自らの自信に結びつき自己学習の日常化へと変化させることに意義があります。この指導を継続し、学習指導の習慣化を目指し全校体制で取り組んでいきます。

実施教科は、今年度も国語、数学、英語とします。各教科部会で協力し、到達度テストは毎月1回程度を目標に実施できるように努めます。各教科とも合格点（通過率）を設定し、合格できなかった生徒は、補充教室や再テストを実施し、学習意欲を喚起します。

以上の2つの実践を本校全教職員が前向きにチャレンジいたします。保護者の皆様のご理解とご支援をお願いするとともに、各ご家庭におかれましては、お子様の学習意欲が少しでも向上化が図れますよう「環境づくり」に、ご努力いただきたく、よろしく願い申し上げます。

Ⅲ、本校「各教科の学力向上推進プラン」について

教科名（国語）

〔日頃の生徒の実態〕 説明的文章・論理的文章は、読解も執筆も苦手とする生徒が多い。言語事項（俚語・故事成語など）には強い興味・関心を持つも、漢字や敬語には実生活での使いこなしが十分に行えずに習得・定着に課題を残している。今年度より全校態勢で取り組み始めた「朝読書」が奏功して定着しつつあり、従前よりも読書そのものに興味や意欲を持ち、読書量を増やしている生徒が増加している。

指導方法の課題の分析

漢字や語句の意味・敬語など、反復学習に加えて日常生活での活用による定着を求められる事項の習得にこれまで以上に時間を要する。

上記の習得率向上を背景としつつ、文章読解力の更なる向上を図る必要がある。

学力向上を目指す具体的な取り組み（授業改善・指導法）

日常生活の中で、言語事項の習得の定着を図れるような指導を継続していく。普段会話をしない相手（特に目上の人や法人受付など）との電話のやりとりや、読書の中で見出される未知または理解が不確かな語句を進んで調べるなど、生活のあらゆる場面に言語事項の習得の機会があることを促していく。

習慣化しつつある読書も、黙読で流すのではなく極力音読することによって正確な語句の読み取りができていないかを確認しながら自らの語彙力・漢字力を高めるよう指導する。授業時には教材文音読の指導を折に触れて重視していく。

「書く能力」を更に向上させるため、短文・長文に拘わらず自らの感想や考えを文章化する習慣を定着させる。頭の中だけで考えたものを文字化するという、多くの生徒にとっては敷居の高い創造的な活動に、授業内のみならず取り組ませる。

漢字検定に多くの生徒が関心・意欲を持って取り組んでいる現状を更に発展させ、各自が自らの目標を掲げて能力の向上に取り組めるように促す。

その他（補充・発展指導計画等）

6年前より全校態勢で取り組んでいる土曜スクール（月2回平均）や、夏季休業時の補習教室など、言語事項を中心に基礎的学力の向上の場を設ける。

区書写コンクール・区読書感想文コンクールなど、自らの能力を試せる機会に積極的に取り組ませる。

教科名（社会）

〔日頃の生徒の実態〕 授業は、どの学年でも基本的に落ち着いて学習に取り組む姿勢が見られる。社会科に対する興味・関心はそれほど高くはなく、発言などの積極的な姿勢があまり見られない。

定期テストの結果は、学年差はあるが、再テストなどを実施すると知識の定着に効果が見られる。今後の課題は、成績の中・上位の生徒の学力向上だけでなく、成績の下位の生徒に対する基礎学力の定着が重要である。

指導方法の課題の分析

地理的分野の知識の定着、歴史的分野の思考・判断の能力の向上、という二つの点が大きな指導上の課題と考える。

学力向上を目指す具体的な取り組み（授業改善・指導法）

地理の知識の定着をはかるためには、白地図・ワークなどの作業課題に授業中取り組ませることや、定期テスト以外の小テストの実施などが考えられる。基礎的な知識の定着に向けて家庭学習を習慣化

をはかるような取り組みも必要である。

歴史の思考・判断能力の向上には、単元ごとに歴史的資料をいかして多様な視点から歴史的事実について考えさせることが重要である。特に、生徒の興味・関心を高めるような資料を選択し、生徒自らが資料を読み取るような学習が必要になる。上記のような具体的な取り組みのなかで、各学年の実態に応じて、年間を通じて柔軟に指導方法を改善していきたい。

その他（補充・発展指導計画等）

補充・発展指導計画等は、各学年の選択社会などの授業を通じて、様々なテーマや課題で生徒に学習をさせることで実施していく。

教科名（数学）

〔日頃の生徒の実態〕

- ・週3時間となり、既習事項を繰り返し復習する習慣を身につけられない生徒が増えた。

指導方法の課題の分析

- ・表やグラフ、式に表すことの意味やよさを実感できる指導が不十分である。
- ・図形の問題では、生徒が作図などの活動を通して直感的・実験的に解決の見通しを持つ力を育成する指導が不十分である。

学力向上を目指す具体的な取り組み（授業改善・指導法）

- ・基礎学力の定着を図れるような指導を継続していく。授業内のみならず、家庭での課題を用意して、基礎計算能力の更なる向上に取り組ませる。
- ・日常生活の中で、絵や模様、形を観察することで、図形を多角的に考えられ得る力の習得の機会があることを促していく。
- ・文章問題の読解力を身につけさせる。文章のまま考えるのではなく、図や表、日常生活の場面に置き換えるなどの視野を広げて考えることの必要性を指導していく。
- ・今年度より数学検定を本校でも募集することになりましたが、興味を持つ生徒が多かった。自分の力を試す機会を設けることで、数学への興味、関心、意欲を引き出し、各自が自ら目標を掲げて能力の向上に取り組めるように促す。

その他（補充・発展指導計画等）

- ・土曜スクールや補習授業等を行い基礎的基本的な内容の定着を図る。
- ・計算コンクールや小テスト等を行うことにより自分の実力を把握させ、目標を持って学習に取り組めるようにする。

教科名（理科）

〔日頃の生徒の実態〕既習事項を振り返り、応用して自ら学ぼうとする姿勢があまり見られず、知識が定着しづらく、理解が深まらない傾向にある。また、考えることを面倒くさがり、安易に結果、結論、正解を求める傾向が強い。

指導方法の課題の分析

- ・既習事項の内容の基礎基本の再定着、発展学習の指導が不十分である。
 - ・生徒に考えさせる習慣を身につけさせる指導が不十分である。
- 学力向上を目指す具体的な取り組み（授業改善・指導法）
- ・生徒が関心、意欲を高める実験、観察を行い、課題解決的な学習を進めていく。
 - ・知識広げ、理解を深めるために、基本用語の確実な定着をはかるために問題演習の機会を増やす。ま問題も質問のでやすいものに工夫する。
 - ・既習事項の理解を深めるために資料集などの副教材を有効に活用する。
 - ・夏季休業中などは科学展などを積極的に紹介することにより、理科への関心をを持たせる。

その他（補充・発展指導計画等）

- ・選択授業の時間には総合的な復習を行い、更に理解を深めるために必要に応じて 実験を積極的に取り入れていく。

教科名（ 英語 ）

日頃の生徒の実態

素直な生徒が多く、リーディングやスピーキングに前向きに取り組む生徒が多い。ただ、単語や英文のライティングが苦手な生徒も多い。予習・復習の定着を指導しているが、とてもよくやってくる生徒も増えている反面、やりきれない生徒もいる現状である。

指導方法の課題の分析

教科書以外の英文（特に中3では入試過去問や英字新聞なども効果的である）を日常的に授業時間内で読み、理解させる取り組みをする。

学力向上を目指す具体的な取り組み（授業改善・指導法）理解力を高めるために、日常的に授業内で5分程度のリーディング教材を用いて読解力をつける取り組みをしていく。表現力をつけるために、会話表現を中心とするフレーズを授業内でふんだんに取り入れる。また、授業に対する意欲を高め、基礎力をつけるため、予習・復習が定着するようなノート作りを指導していく。

その他（補充・発展指導計画等）

選択教科や不定期の補習で、入試過去問・英字新聞読解に取り組ませるなどしていく。また英検対策として、2次面接の練習を全学年の英語科の教員で協力して行っている。色々な取り組みをこれからも工夫して、生徒のモチベーションを高めたい。

IV、小岩三中が目指す今年度の重点施策

本校の実践として継続している「基礎学力の向上を図る重点施策」は、今年で4年目を迎えました。この重点施策は、生徒達の自学自習への意識化、習慣化を目指した全教職員で行う学習指導の実践にあります。

一つは、「6月から毎月2回実施の土曜スクール」の開催です。参加生徒は全学年ともに希望制とし、実施回数は16回としました。22年度の参加数は各学年とも平均すると40名から50名、合計で147名となりました。

学習方法と内容は、補習的な学習で基本的な問題を主にしています。課題プリントは五教科(国・社・数・理・英)を設定しています。生徒達は各自で前向きに、そのプリントに取り組みます。そして、分からない部分を、指導員(本校の教員・大学生・地域の方)から指導や助言をいただき解き方や考え方をマスターしていきます。参加する生徒達には大変好評です。

二つ目は、先生方の共通理解の下、三教科(国語・数学・英語)に絞り込んで作成した自作テキストを活用した「基礎学力向上を図る到達度評価テスト」の実践です。今年は、昨年以上に生徒自身に意識させること。また、それ以上に保護者の皆さんへ、この取り組みを理解していただき、基礎学力に関する生徒の実態を把握していただくことを啓発できればと考えています。それでは具体的に本校の「基礎学力の向上を目指す推進プラン」について説明いたします。

V、「基礎学力向上プラン」の構成図

基礎・基本の定着

- ・朝読書活動による読解力の向上
- ・数学科教師による授業の支援体制を組み個別指導に取り組む
- ・英語・社会・数学・漢字等、各種検定を活用した学習意欲の向上に取り組む
- ・選択授業による補充学習の開設実施
- ・達成度や課題把握のための到達度評価テストの実施。三教科（国・数・英）にしぼる
- ・土曜スクールによる補習活動の実践

個に応じた学習指導の充実

- ・外部評価からえられた情報のもと家庭学習の習慣化に力を入れる
- ・土曜スクールの開設
- ・長期休業中の補充教室の時数を増やし、開催する（教師の意識化）
- ・パソコンの活用
- ・総合的な学習の時間を活用し、課題別・調べ学習の実施
- ・助け合い学習の推奨
- ・テスト前の質問教室

小岩第三中学校《学力向上プランの目標》

- ・基礎・基本の学力の定着を図る実践を充実させる
- ・選択授業や総合的な学習の時間を有効活用させる
- ・家庭や地域の支援と連携を深める活動にしていく
- ・小学校との連携実践を具体的に実施する

家庭や地域との連携

- ・学習計画表を作成させ、保護者欄を通して家庭との連絡をとる
- ・テストの記録表を通して連絡と確認を実施する
- ・外部評価を実施し保護者との連携を図る
- ・到達度評価テストで分かった個々の習熟度や課題を家庭に連絡する
- ・地域の人材や大学生の支援による土曜スクールの活性化を図る

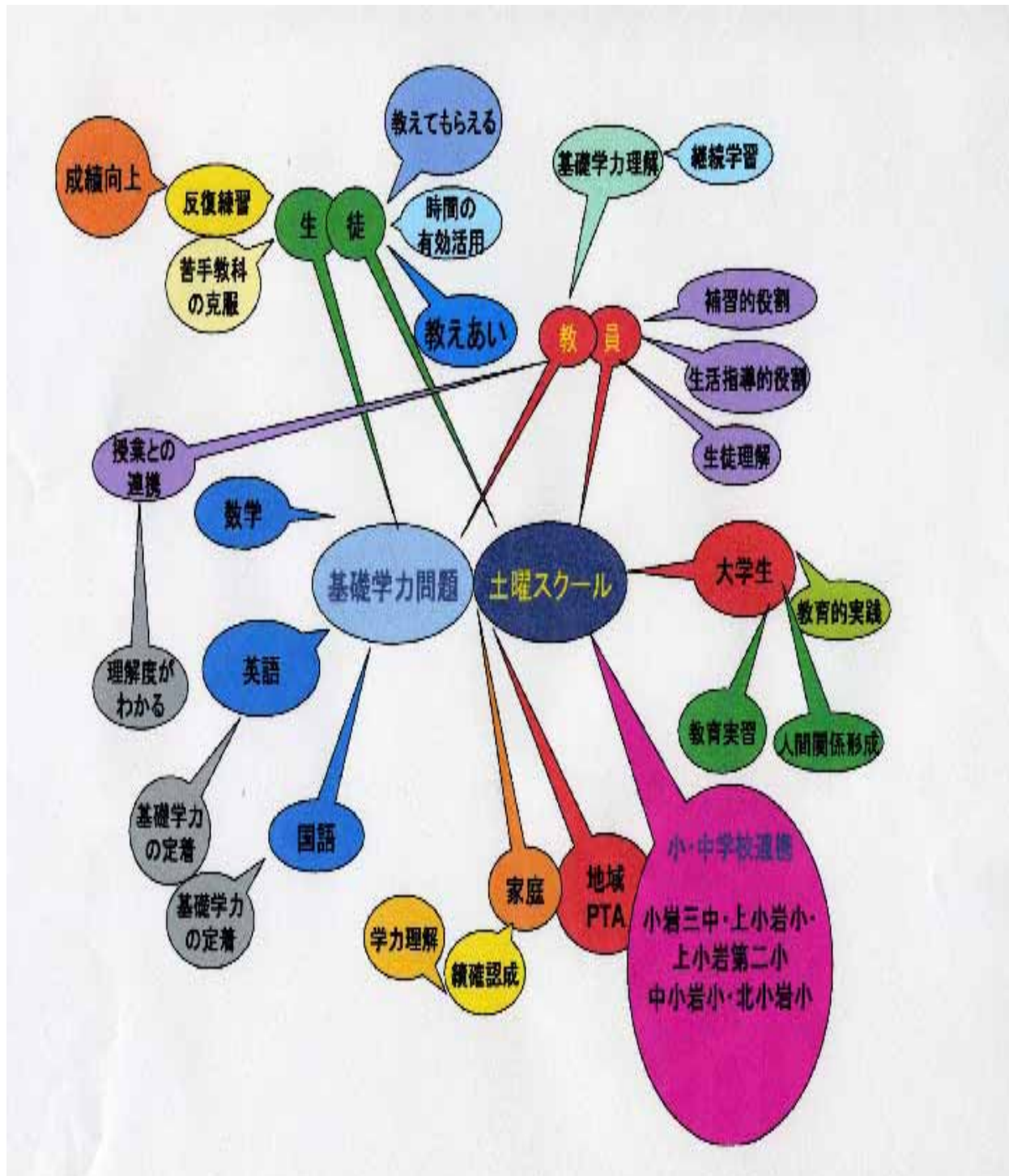
本校の学力調査の結果について

「指導と評価」の具体策

- ・委員会を設置し方策を考える
- ・各教科の評価規準を記した年間計画を作成し、年度始めに保護者に通知し、理解を得る
- ・教材・教具の創意と工夫に努める
- ・非常勤講師との連絡や研修により、指導と評価の適正化を図る

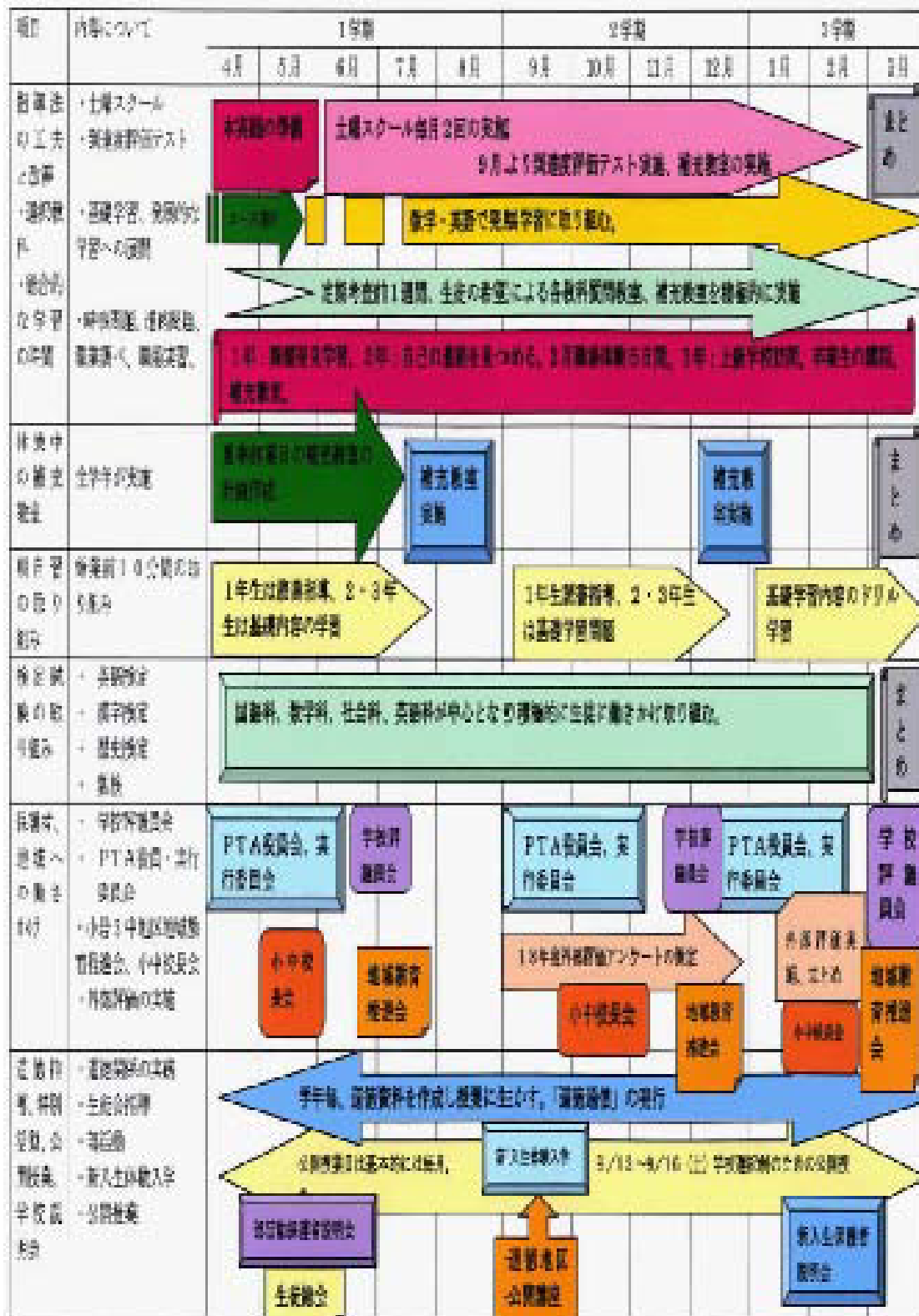
VI、土曜スクール・基礎学力評価テスト関連図

下の図は、本校が平成16年度から実践している重点指導目標にしている「土曜スクール」と「基礎学力評価テスト」の実践を取り巻くあらゆる環境を理解しやすくまとめたものです。



VII、学力向上プラン年間指導計画図

この図は、平成22年度の指導内容について年間を通して月別にまとめたものです。これをご覧いただけますと、いつ頃にどのような動きで学習活動が進められているか。本校の様子などが、おおよそご理解いただけます。



VIII、学力向上プラン年間月別指導計画表

月	指導内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上委員会の発足 ・ 朝読書の課題準備・週間ローテーションの作成・実施
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の読書指導、 ・ 土曜スクールの開設準備（計画・指導員の依頼）、生徒募集 ・ 総合学習内の学力向上プラン計画・実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の読書指導 ・ 土曜スクール指導員打合せ、 ・ 自作テキスト再編集、業者発送
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の読書指導、夏の補充教室の開室準備、と計画・教科部会による到達度テストの内容検討、 ・ 土曜スクール ・ 夏休みの宿題による復習学習・課題学習 ・ 朝読書の中間評価・まとめ
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補充教室、 ・ 夏休みの宿題による復習学習・課題学習
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、 ・ 朝の読書指導 ・ 夏休み確認テストの実施、 ・ 到達度評価テストの実施（国・数・英）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、朝の読書指導 ・ 到達度評価テストの実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、朝の読書指導 ・ スペリングコンテストの実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、 ・ 朝の読書指導 ・ 到達度評価テストの実施 ・ 朝読書の評価・まとめ
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、 ・ 朝の読書指導 ・ 補充教室の開催 ・ 小中学校連携研究校打ち合わせ会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクール、 ・ 朝の読書指導 ・ 外部評価の実施とまとめ分析
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜スクールのまとめと反省 ・ 外部評価の公表 ・ 到達度評価テストのまとめ ・ 次年度に向けて年間指導計画検討

、平成20年度 江戸川区教育課題実践推進校として、「学力向上を目指す小・中学校の連携・つまずきに気づき、基礎をかためる自作テキストの活用」を研究主題に研究を進めます。小学校・中学校のつまずきに自ら気づき、基礎を固める自作テキストを改訂していきます。また、自作テキスト専用のノートを活用した小中を見通したつまずき指導を図っていきます。

・本校が重点として16年度9月から全校あげて、実践してまいりました「土曜スクール」と「基礎学力の向上を図る到達度評価テスト」の実践の写真を紹介させていただき本校の「学力向上プラン」の紹介とさせていただきます。

IX、小岩第三中学校が実践中の「土曜スクール」「基礎学力の向上を図る到達度評価

テスト」の実践中の写真の紹介

【土曜スクールの生徒達と指導員】



【基礎学力向上を図る到達度評価テストの様子】



【本校の自作テキスト紹介】



